

道路建設事業の再評価項目調書

| 事業名 | 一般国道29号 津ノ井バイパス | 事業主体 | 中国地方整備局 | | | | | | | | |
|---|---|------|----------------------------|------------|-----------|---|---|---|--|-----------|-------------|
| 所在地 | 鳥取県鳥取市苅宜谷～鳥取県鳥取市菖蒲 | | | | | | | | | | |
| 事業概要 | <p>一般国道29号は、兵庫県姫路市を起点とし、鳥取県鳥取市に至る延長約120kmの主要幹線道路である。</p> <p>津ノ井バイパスは、鳥取市街地に流入する交通を分散誘導して市内の交通混雑の解消を目的とした、鳥取市南西部の半環状道路の一部を構成する延長9.5kmの道路である。</p> | | | | | | | | | | |
| 事業着手 | 昭和59年度 | | | | | | | | | | |
| 総事業費 | 約560億円 | 既投資額 | 平成14年度末まで 312億円(進捗率56%) | | | | | | | | |
| 再評価の必要性に関する視点 | <p>ア)事業をめぐる社会情勢等の変化</p> <p>鳥取市南部の当該地区周辺は、大規模住宅団地を中心に大学・商業・産業施設を配した総合的なまちづくりや工業団地、市立病院の移転開業等が進展し、交通量が増大しており、慢性的な交通混雑が発生している。</p> <p>S56.11 津ノ井工業団地 竣工</p> <p>S58.4 津ノ井ニュータウン事業着手(～H10完成)</p> <p>H1.7 津ノ井ニュータウン分譲開始</p> <p>H7.4 鳥取市立病院が的場地区(鳥取県東部拠点都市地域の健康福祉エリア)に全面移転開業</p> <p>H7.4 鳥取市営サッカー場バードスタジアム 完成</p> <p>H12.4 鳥取県産業技術センターが鳥取テクノパーク内に統合整備</p> <p>H13.4 鳥取環境大学 開学</p> <p>イ)費用便益分析</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">道路事業に要する費用</th> <th style="width: 50%;">道路整備による効果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 総費用 評価対象期間内 = 整備期間 + 40年 (総事業費 560億円) (部分供用に要した事業費 270億円) (残区間整備に必要な事業費 250億円) (現在価値換算事業費 211億円) </td> <td> 走行時間 短縮便益 430億円 走行費用 減少便益 41億円 交通事故 減少便益 29億円 総便益 + + = 500億円(B) </td> </tr> <tr> <td> 事業費 211億円 維持管理費 26億円 総費用 + = 237億円(C) </td> <td></td> </tr> <tr> <td>費用便益分析の結果</td> <td>B / C = 2.1</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">「費用便益分析マニュアル(案)による」 (H10.6.26付建設省道経発第14号通達)</p> | | | 道路事業に要する費用 | 道路整備による効果 | 総費用 評価対象期間内 = 整備期間 + 40年 (総事業費 560億円) (部分供用に要した事業費 270億円) (残区間整備に必要な事業費 250億円) (現在価値換算事業費 211億円) | 走行時間 短縮便益 430億円 走行費用 減少便益 41億円 交通事故 減少便益 29億円 総便益 + + = 500億円(B) | 事業費 211億円 維持管理費 26億円 総費用 + = 237億円(C) | | 費用便益分析の結果 | B / C = 2.1 |
| 道路事業に要する費用 | 道路整備による効果 | | | | | | | | | | |
| 総費用 評価対象期間内 = 整備期間 + 40年 (総事業費 560億円) (部分供用に要した事業費 270億円) (残区間整備に必要な事業費 250億円) (現在価値換算事業費 211億円) | 走行時間 短縮便益 430億円 走行費用 減少便益 41億円 交通事故 減少便益 29億円 総便益 + + = 500億円(B) | | | | | | | | | | |
| 事業費 211億円 維持管理費 26億円 総費用 + = 237億円(C) | | | | | | | | | | | |
| 費用便益分析の結果 | B / C = 2.1 | | | | | | | | | | |

| 事業名 | | 一般国道29号 津 ^つ ノ井 ^{のい} バイパス | 事業主体 | 中国地方整備局 |
|----------------------------|--|---|------|---------|
| 再 評 価 の 視 点 | 事業 の 必 要 性 に 関 する 視 点 | <p>ウ)事業の効果</p> <p>中心市街地の活性化・・・中心市街地へ至る現道の混雑度が改善 都市圏の交通円滑化の推進・・・主要渋滞ポイント（吉成交差点）の渋滞が緩和 地域づくりの支援・・・基盤的技術産業集積活性化計画などを支援</p> <p>エ)事業の進捗状況</p> <p>1．主な経緯</p> <p>昭和59年度 事業着手 昭和60年 1月 都市計画決定(起点～国道53号交差点) 昭和60年度 用地買収着手 昭和61年度 工事着手 平成 6年 7月 都市計画決定(変更) 平成 7年 3月 (都)富安大路線～(県)八坂鳥取停車場線間 L = 1.0km(側道2/2)供用 平成 8年 4月 (県)八坂鳥取停車場線～国道53号交差点 L = 0.8km(側道2/2)供用 平成 8年11月 都市計画決定(変更) 平成 8年12月 (県)若葉台東町線(旧29号)～(市)久末生山線 L = 2.3km(本線2/4)、(側道2/2)供用 平成10年 中国横断自動車道(鳥取IC)関連により工区延伸 (L = 2.0km事業化) 平成10年 3月 (都)富安大路線～(県)八坂鳥取停車場線間 L = 0.2km(側道2/2)供用 平成12年 4月 (都)桜谷東大路線～(都)富安大路線 L = 0.7km(本線2/4)供用 平成13年 3月 (市)久末生山線～(都)桜谷東大路線 L = 1.2km(本線2/4)、(側道2/2)供用</p> <p>2．事業の進捗状況</p> <p>工事の進捗状況</p> <p>段階的な整備を進め、平成12年度までに津ノ井ニュータウン～鳥取市菖蒲間 L = 7.5 kmを供用しているところである。また、平成14年度末までの進捗率は約45%である。</p> <p>用地補償の状況</p> <p>平成14年度末までに本線部の用地買収を完了しているところであり、全体の約96%の用地買収を完了している。</p> | | |

| | | | | |
|----------------------------|-------------------------------|---|------|---------|
| 事業名 | | 一般国道29号 津 ^つ ノ井 ^{のい} バイパス | 事業主体 | 中国地方整備局 |
| 再 評 価 の 視 点 | 事業 進捗の 見込み | <ul style="list-style-type: none"> ・用地の進捗見込み 現在、鳥取IC関連の用地取得を促進しているところであり、平成15年度末には96%になる見込みである。 ・工事の進捗見込み 現在、因幡大橋の4車化を促進しているところである。また、残る区間についても引き続き整備を行う予定である。 | | |
| | コス ト縮減 や代替 案の可 能性 | <ul style="list-style-type: none"> ・耐候性鋼材を採用し、鋼橋を無塗装化することにより、コストの縮減が可能と考えている。 ・建設副産物の発生抑制や再生材利用等により、今後ともコスト縮減に努める。 ・また、 、 の視点による再評価より、代替案を検討する必要はないと考えている。 | | |
| 今後の対応 方針 | | <ul style="list-style-type: none"> ・事業継続 平成19年度の因幡大橋の4車線化を目標に事業を推進する。 引き続き吉成交差点の立体化事業を推進する。 | | |

一般国道29号 津ノ井バイパス

平成15年11月
国土交通省中国地方整備局

位置図

